

令和元年15期同窓会 イン 桑名市

15期 祖父江 直久

今年（2019年）の15期会は三重県桑名市で行われた。幹事は祖父江、副幹事は佐野、特別幹事として桑名の大先輩森川さん（11期）。通常は秋の気候のよい時期に集合するのだが今年は桑名の日本一やかましい祭りと言われる石取祭（いしどりまつり）にあわせて令和元年8月2日、3日、4日の（金）（土）（日）とした。

石取祭は町屋川の河原で拾った石を詰めた俵を春日神社に奉納する神事で平成28年にユネスコ無形文化遺産に登録された。8月2日は24時より春日神社の神主の合図で各町内の祭車に取り付けられた鉦（カネ）と太鼓が一斉に打ち鳴らされる。24時の「叩き出し」で石取祭が開始される様は感動の瞬間と言える。我々はこの日21時より居酒屋「串まん」に集合した。参加者は板尻夫妻、宇野夫妻、間所夫妻、松林、松縄、増田、奥名、鈴木、舟田で幹事3人とあわせると総勢15人の団体となった。前夜祭のような日程でおまけに一年で一番暑い時期によく集まったと思った。狭い店なのでカウンター席まで進出して和気あいあいと宴会は始まった。店自慢の串カツ、串焼きに舌鼓を打ちながら23時頃まで待機した。



叩き出し 前

そのあと祭の中心地の春日神社まで約15分歩いた。春日神社の参道は人が一杯でお互いはぐれないように参拝をして24時の叩き出しを待った。24時に叩き出しが始まった。独特のリズムで打ち鳴らされる鉦（カネ）と太鼓は他所から来た人にはその音がしばらく耳から離れないと思うが、桑名っ子はこの音を手守り代わりに眠りにつくと言われている。祭車には大太鼓1つ、鉦（カネ）が4つ備えられるが彫刻、薪絵、天幕などどこ

された立派なもので、各町内より今年は39台の参加であった。夜は提灯（ちょうちん）が灯され荘厳な雰囲気になる。一台は家一軒ぐらいの価格といわれている。石取祭を十分堪能した。

2日目の8月3日は佐野君、森川さんにガイドをお願いした。希望者数名の健康診断を当院で行った。また桑名の名所である六華苑に案内し苑内の茶室で抹茶を接待してもらった。六華苑とは旧諸戸清六邸で国指定重要文化財である。四層の塔室をもつ木造二階建て洋館と地泉回遊式庭園を持つ和風建築からなる。洋館は鹿鳴館を設計したことで有名なイギリス人建築家ジョサイア・コンドルが設計した明治大正期を代表する貴重な文化財産で、テレビ、映画のロケにもよく使われる。石取祭も8月3日は試楽（しんがく）といって夕刻から各町内を祭車が練り歩き、鉦太鼓を打ち鳴らしています。

この日は三宅夫妻、上馬夫妻、金井夫妻、川端（16期）が合流、石取祭を見物しながら集合「俵寿司」でまさにすし詰め状態で寿司や味噌田楽を食べた。そのあと夜の祭を見に行くグループ、カラオケに興じるグループなどに分かれた。拙宅で松縄君がピアノの演奏をやってくれるということで自宅まで歩いて妻のマリンバ、母のピアノも加わってにぎやかな一夜を過ごした。

8月4日石取祭の本祭で祭車が整列場所に並び順番に渡祭（とさい）と言って神社の前で鉦太鼓を打ち鳴らします。この日我々は多度山（403m）登山の予定であったが、猛暑日のため中止し、多度大社を参拝したあと川のせせらぎが聞こえる

「多度峡バーベキュービレッジ」で焼肉、若鶏の丸焼きなどを食べた。桑名へもどり名物安永餅をお土産に買い解散した。



多度大社にて